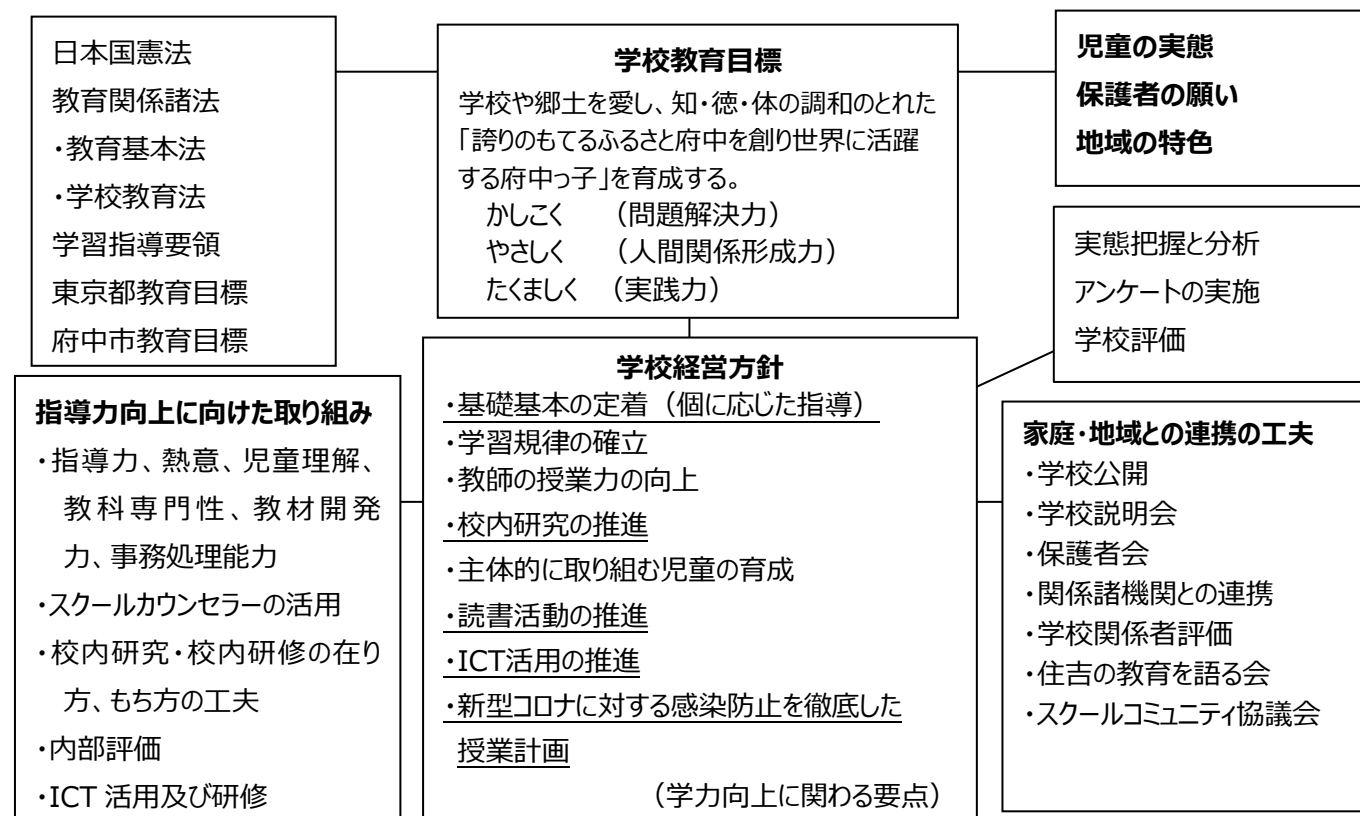


令和4年度 授業改善推進プラン 全体計画



授業改善に向けた視点

基礎・基本となる知識・技能の定着（基）

思考力・判断力・表現力の育成（思）

教員の指導力の向上	学力向上のための取り組み	家庭・地域との連携
<p>授業力 ・細やかな週ごとの指導計画と評価 ・教員相互の授業参観と授業改善 ・若手研 ・学年共通実践 読書1人100冊突破 あいさつ運動など ・校内研究をはじめとする、計画的な研修・研究の推進 ・ICT活用による授業実践</p> <p>児童理解 ・全教職員による児童に対する共通理解（校内研究 児童理解研修、生活指導夕会、特別支援教育研修） ※管理職による授業観察と面談、指導</p>	<p>基礎・基本となる知識・技能の定着 【分かりやすい授業づくり】 ・めあての明確化によるよく分かる授業(基) ・振り返り、繰り返しによる学力の定着(基) ・学校支援員等との連携によるよく分かる授業(基)(思) ・ユニバーサルデザインの視点にたった、誰にでも分かる授業(基)(思) ・ICTを活用した分かりやすい授業(基)(思)</p> <p>【学力定着のための環境づくり】 ・読書指導・活動の充実(基) ・ベーシックドリルを活用することによる、児童一人一人の学力把握と個別指導の推進(基) ・学力テストの結果分析と改善策の検討(基)(思) ・習熟度別指導の工夫と改善と基礎的・基本的な学力の定着(基)(思)</p> <p>思考力・判断力・表現力の育成 ①授業の目標を明確にした深い学びのある授業の実施(思) ②話し合い活動や発表する場の意図的な設定(思) ③振り返りによる自己評価力（自己評価）</p>	<p>家庭 ・学年に応じた家庭学習の取り組み方についての共通理解 ・望ましい学習習慣・生活習慣の基礎になる心の健康維持 ・学力調査結果を活用した保護者との学習状況や指導の方向性の共通理解 ・学校公開等でのアンケートの分析と改善策の検討・実施・公表</p> <p>地域 ・地域教材・人材の積極的な活用 ・町クリエイターによるキャリア教育 ・放課後算数教室 ・地域図書館との連携や保護者ボランティアとの連携による読書活動の充実 ・学童クラブ、児童館、幼稚園、保育園、中学校との情報交換と連携 ・学校 Web サイトによる情報発信</p>

各学年の児童の実態や課題と具体的な方策

1 年生

教科	観点	・児童の実態や課題	・課題に対する具体的な方策
国語	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 文字の習得や言葉遊びに楽しんで取り組むことができる。 楽しんで読書をしたり、読み聞かせを聞いたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレットを活用し、より個々に応じた学習ができるようにする。 授業内容に合わせた本を取り上げて紹介し、授業の進行に合わせて、自分で読む機会を増やす。
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 自分事として聞き、考え、決めることが難しい児童がいる。 ほとんどの児童が簡単な文章や話すことで自分の思いを表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業導入時の関心意欲を高める「しかけ」を工夫する。 ICT 機器を活用しながら活動や体験を振り返り、友達と交流する中で表現することへの意欲をはぐくむ。
	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名の読み書きが十分にできない児童がいる。 自分の思いを表現する技能は、個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名やカタカナ、漢字の習得に向けた学習とともに、正しい表記を復習していく。 タブレットでの学習を取り入れる。
算数	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 数の概念や構成を理解できていない児童がいる。 たし算、ひき算は、具体物を使用しないと計算できない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵、図などを使って考える授業を工夫する。 具体物を操作する活動、タブレットを活用した疑似操作活動や繰り返しの学習を工夫する。
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 文章題の内容を理解できない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章題の中でキーワードを見付けさせ、線を引かせる。また、具体物を使ったり、絵や図に表したりしながら理解につながるように繰り返し指導する。
体育	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 体を動かすことが好きな児童が多い一方、集団での学習に入れられないことのある児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> できているところを認めたり、励ましたりしながら、意欲を維持させる。
	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 整列の仕方や運動遊びの約束を理解して活動に取り組んでいる児童が多い。 技能の個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 楽しく安全に運動するためのルールや約束を子供たちの話し合いで作る経験を多く設定し、それを守って活動する楽しさを味わわせる。 運動遊びを通して、自分の身体の使い方に気付かせられるように、多くの運動遊びに取り組ませる。
生活	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 生活科の学習が好きで、主体的に活動できる児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の思いや願い、思考の流れにそった学習活動を展開する。
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 思いや願いはあっても表現が拙く周囲に伝わらなかったり、それを持続できなかったりする児童が少なくない。 	<ul style="list-style-type: none"> 見つける、くらべる、例えるなどの活動を丁寧に取り上げ、そこでの表現を認める。 タブレットを活用した学習の振り返りを工夫する。
音楽	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 歌やリズム遊びが好きな児童が多く、楽しんで取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> お互いの音や声を聴き合い、音や声の強弱や美しさを感じられる環境づくり、声かけを工夫する。 鍵盤ハーモニカの指の動きなど、ICT 機器を活用し視覚的に確認できるようにする。
図工	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> のりの付け方、はさみの使い方など、用具の基本的な使い方が身に付かない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 図工のみならず様々な活動においてのりやはさみを活用し、体験を増やすことで用法を身に付ける。
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> すぐに自分のイメージが浮かび活動を進められる児童がいる一方、なかなか表現したいことが思い付かず活動が停滞したり、長続きしなかったりする児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な表現を認めるとともに、造形遊びなど、心理的ハードルの低い活動の充実を図る。 ICT 機器なども活用して、友達の表現を全体で鑑賞、交流する場面を設定する。

2 年生

教科	観点	・児童の実態や課題	・課題に対する具体的な方策
国語	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 各言語活動における個人差は大きく、個々の実態に応じた指導が必要である。 正しい表記を身に付けていなかったり、語彙が不十分で表現できなかつたりする様子が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 個に応じた手本やワークシートを用意する。 デジタル教科書や書画カメラを活用して、視覚的支援や言語事項の指導を工夫する。 オノマトペやリズム感のある活動を取り入れて、言語事項を音から取り入れる工夫をする。 読書活動の時間を十分に確保する。
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 文章の大体はつかめるが、細かな表現や文と文との関係性を理解することに課題がある。 話すこと、書くこと自体や、「自分の考えをもつ」ことへの苦手意識など、表現することへの抵抗感が感じられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器などを活用して、文の構成を視覚的に理解できるようにする。 授業の振り返りや読み取ったことを整理する時間をもつ。 「一人一人違う考えを共有する大切さ」を実感できる指導、自分の思いが伝わった充実感を味わえる活動を計画する。
	主体的に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 学習したことを生活に生かそうとする意欲をもたせることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 進んで話したり書いたり読んだりできる環境や時間の確保に努める。
算数	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な技能の正確性や速さは個人差がある。また、時刻を読んだり長さを測ったりする技能に課題がある。 一斉指導では理解が難しい児童への支援が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な活動を多く採り入れ、楽しく繰り返し学習ができるように工夫する。 デジタル教科書やタブレットを活用して視覚的により分かりやすい授業の工夫をする。 支援員との連携を密にし、児童理解の情報共有と個別指導の機会確保に努める。
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 問題場面の理解が難しく、絵や図、式に表すことができない児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵や図、式などの表現や活用できるように繰り返し指導する。 ICT機器を活用して、視覚的支援を工夫する。
体育	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 個人差はあるが、初めて経験する遊びや苦手なことにも、楽しく取り組むことができている。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達同士で認め合う場を設定したり、ワークシートを活用したりして、運動への意欲を促す。
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 友だちのよい動きを見つけ真似できる児童が多いが、よさを言葉で表すことは難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器などを活用し視覚的に良い動きを共有し、よさを発見し言語化できる場面を設定する。
	主体的に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 休み時間や放課後に、授業で学習した遊びやゲームを楽しむ児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 密集及び対面の運動を避けることなど感染症対策への意識をもたせながら、意欲的な活動を止めないようにする。
生活	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 活動や体験の過程で、思うようにできなかったり失敗したりしたことで、活動継続への意欲が低下する児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 比べたり、試したり、工夫したりなどの学習活動を充実させる。
	主体的に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 社会や自然への関心は高いが、それを調べたり、取り組んだりする能力に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器などを活用して、調べたりまとめたりする学習を充実させる。
音楽	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 鍵盤ハーモニカの指使い等、技能面での個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別に指導する時間を工夫し、家庭学習も併用して練習を続ける環境をつくる。
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 音の高低や楽器の音色を聞き分ける力が弱く、音楽づくりや鑑賞が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 音の組み合わせや楽器のハーモニーの楽しさを継続的に指導する。
図工	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 筆の使い方や色の組み合わせ方、粘土の扱い方などが未熟である。 	<ul style="list-style-type: none"> 用具の様々な用途や様々な技能を継続的に確かめる時間をもつ。
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 課題に沿った表現を十分できない。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の最初に、課題について十分伝え、表現方法をいくつか紹介して学習内容をイメージできるようにさせる。
	主体的に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 造形活動を好み、関心をもって取り組むことができる一方、消極的な児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的にイメージできるように個別指導し、自分の表現活動を友達に評価してもらう機会を増やして充足感をもたせる。

3年生

教科	観点	・児童の実態や課題	・課題に対する具体的な方策
国語	知識・技能	・授業での漢字の練習は好きな児童が多いが、家庭での宿題に取り組めない児童もいる。漢字の習熟に個人差が見られる。書くことに苦手意識をもっている児童が多い。	・家庭で取り組めない子は、学校でやったり、朝の時間に練習する時間を設けたりして、定着を図る。漢字の宿題として取り組み、定着を図る。また、定期的に小テストを行う。 ・他教科の学習等でも、習った漢字は使えるように、教師が意識して指導していく。
	思考・判断・表現	・物語文の読み取りを苦手になっている児童がいる。	・主人公はどんな気持ちだったのか、他者との意見交流をして考えを深める。 ・発達段階に合わせた本を選出し、読書の環境を整え、本に親しませる。
	思考・判断・表現	・自分の考えをもち、表現することに対して苦手意識がある。	・他者との意見交流をしたり、机間巡視の際に、児童の考えに自信をもたせるように赤線を引いたりする。
算数	思考・判断・表現	・立式はできるが、図や言葉で説明することが難しい児童が多い。	・キーワードとなる言葉に着目させる。また、ICTを活用し、文章問題の内容を図などで確認していく。
	知識・技能	・簡単な四則計算の暗算を身につけていない児童がいる。	・四則計算の補充プリントを用いて繰り返し指導する。
社会	思考・判断・表現	・身の回りの地域について、興味をもって取り組むことができたが、経験が少なく学んだことをワークシートにまとめることを苦手とする児童もいる。 ・資料から読み取る力が弱い。 ・社会科見学では、集中して話を聞き、興味をもって見学することができる。	・地図上の方位等の基礎的知識を繰り返し指導することで、定着を図る。 ・ICTを活用して、資料（地図、写真等）などを提示し、気付いたことや考えたことなどを書かせる取り組みをしていく。
理科	主体的に学習に取り組む態度	・生き物に興味の強い児童が多く、飼いたい、調べたいという意欲が大きい。	・引き続き意欲をもち続けられるよう、飼育したり、ICTを活用して色々な生き物を紹介したりしていく。
	思考・判断・表現	・調べたり観察したりしたことから、共通点や差異を見つけ出すことが難しい児童がいる。	・観察の視点を示し、比較をしながら見つけれられるようにしていく。また、全体での話し合いの時間を十分に取るようにしていく。
体育	関心・意欲・態度	・運動を楽しもうとする児童が多い。苦手な活動には、消極的な児童が多い。	・みんなが楽しめるように、ルールを工夫したり、簡単なゲームをしたりして興味をもてるようにする。
	知識・技能	・「マット」では、ポイントを押さえ活動することができたが、回り方の勢いや自分の体を支えられず、前転や後転がうまくできない児童が多い。	・体づくりの運動を通して、自分の体の使い方を知る活動を取り入れる。ICTを活用して映像を紹介し、自分の体を支えたり、柔軟をしたりしながら体を動かす技能を高めさせる。
図工	学びに向かう力	・造形活動が好きで楽しく学習している児童が多いが、一方で根気強くつくるのが苦手な児童が数名いる。	・苦戦している児童に寄り添い個別に指導していく。できた達成感を味わわせ、次のステップにつなげていく。
	知識・技能	・手先の発達に差があり、用具や材料の特徴を生かして工夫することに課題がある児童がいる。	・既習の用具・材料を使用する際には、実演を見せたり、ICTを活用して動画や写真を掲示したりし、使い方や手順を再度確認させる。
音楽	知識・技能 主体的に学習に取り組む態度	・リコーダーの基礎的な技能（タンギングや構え方）を確実に身に付けたいが、コロナ対策もありなかなか進まない。 ・地声でなく、自然なよい発声を身に付けることが必要である。	・感染状況に応じて柔軟に実施する。平常時は距離をとりながら短時間で基本の練習を常時活動として行う。短いフレーズのリレー奏やミニテストで1人1人を見取り、個に応じた指導をする。 ・歌う前に発声練習を取り入れ、よい範唱にたくさん出合わせる。 ・児童の実態や興味・関心に応じて、教科書以外からも楽しい教材を取り入れていく。

4年生

教科	観点	・児童の実態や課題	・課題に対する具体的な方策
国語	知識・技能	・漢字の習熟に個人差が見られ、書くことに苦手意識をもっている児童が多い。	・朝の時間に練習する時間を設けたり、宿題として取り組んだりして定着を図る。また、定期的にテストを行う。 ・他教科の学習等でも、習った漢字は使えるように、教師が意識して指導していく。
	思考・判断・表現	・物語文において文章にのっていない深い学びの問題を苦手としている児童がいる。	・主人公はどんな気持ちだったのか、他者との意見交流をして考えを深める。
	思考・判断・表現	・自分の考えをもち、表現することに対して苦手意識がある。	・他者との意見交流をしたり、机間巡視の際に、児童の考えに自信をもたせるように赤線を引いたりする。
算数	知識・技能	・三角定規や分度器、コンパスを使い、垂直、平行な図形を正しく作図することが苦手な児童が多い。	・教具や大型ディスプレイを活用し、視覚的にわかりやすく提示する。辺の長さや角の大きさを正確に測り、作図する練習を繰り返し行う。
	思考・判断・表現	・わられる数やわる数が2けた以上になると、問題場面を想像して立式することが苦手な児童がいる。	・図やブロックを活用することで10や10の束を意識させ、問題場面を想像しやすくする。
社会	思考・判断・表現	・生活体験や導入資料から興味関心をもつ姿が見られるが、資料を正しく読み取ったり、自分の考えを表現したりする力が弱い。	・「問題をつかむ」「予想する」「調べる」「まとめる」のプロセスを大切に。 ・資料活用の際、パンフレットや動画を活用し、イメージをもてるようにする。 ・日常的に資料を読む機会を増やす。
	主体的に学習に取り組む態度	・学習が自分の生活に深くかかわっていることに気づき、より良い生き方を考える力に課題がある。	・学習の導入のみならず、まとめでも自分の生活に立ち返らせ、日々振り返る機会を作る。
理科	思考・判断・表現	・予想を立てることはできるが、既習事項や生活経験を基に根拠を立てることが難しい。	・根拠をもって予想を立てることができるように、共通体験の時間を設定する。また、既習事項や生活経験を想起させるような資料を提示する。
	主体的に学習に取り組む態度	・科学的な事象への興味が強い児童が多い。進んで実験や観察に取り組むことができる。	・なるべく一人一実験で学習を進め、実験の時間を確保し、主体的な学びにつながるようにする。
体育	思考・判断・表現	・体育の学習へは意欲的に取り組む児童の姿が多くみられる。 ・自分たちでルールを工夫してゲームを行うことが難しい。	・どの方法で行えば運動を楽しむことができるのか、選択できる幅を増やす。また、決められた規則について、変更できることを明確にする。 ・自己の課題については、ICT機器を使用して、振り返りを行う。 ・熱中症対策を取りながらマスクを必要に応じて外させる。 ・児童同士の距離を1m以上確保する。 ・マスクを外した場合は、児童間の会話を禁止する。
	知識・技能	・「マット」では、ポイントを押さえ活動することができたが、回り方の勢いや自分の体を支えられず、前転や後転がうまくできない児童が多い。	・体づくりの運動を通して、自分の体の使い方を知る活動を取り入れる。ICTを活用して映像を紹介し、自分の体を支えたり、柔軟をしたりしながら体を動かす技能を高めさせる。
図工	主体的に学習に取り組む態度	・意欲的に取り組むことができる児童が多いが、最後まで根気よくつくるのが苦手な児童がいる。	・苦戦している児童に寄り添い個別に指導していく。できた達成感を味わわせ、次のステップにつなげていく。
	知識・技能	・手先の発達に差があり、用具や材料の特徴を生かして工夫することに課題がある。	・既習の用具・材料を使用する際には、実演を見せたり、ICTを活用して動画や写真を掲示したりし、使い方や手順を再度確認させる。
音楽	知識・技能	・リズム活動や歌集の歌など、すぐにできることを楽しむ一方、思考や努力を必要とすることになかなか取り組めない児童がいる。 ・より良い演奏をするために、音楽の中身を理解する。	・一緒に考えたりヒントを与えたりしながら、個別の目標を設定する。 ・各楽曲の中で旋律の特徴や強弱記号、歌詞についてなど、音楽を特徴付ける要素について必ずふれ、言葉をおぼえていく。
	主体的に学習に取り組む態度	・意欲的に歌ったり活動したりする児童は多いが、発言する児童に限られ、全体が発言する児童に頼ってしまう傾向がある。	・「隣の友達と1つずつ考えを言う」「ワークシートに書く」「タブレットで共有」など、1人1人が考えざるをえない場をつくっていく。

5 年生

教科	観点	・児童の実態や課題	・課題に対する具体的な方策
国語	思考・判断 ・表現	・自分の考えを分かりやすい文章で伝える力が不十分である。	・読む教材を通して、文章の構成を身に付けさせる。また、一文は短くし、適切な語を選ぶ習慣を身に付けさせる。
	知識・技能	・文における主語と述語の関係を正しく読み取ることが苦手である。	・文における主語と述語の成り立ちについて知識の定着をはかり、文の成り立ちを意識して読み取る機会を増やす。
算数	知識・技能	・小数のわり算とかけ算の仕方を理解し、正しく計算することに課題がある児童がいる。	・小数のわり算とかけ算を、朝の学習や宿題などで定期的に取り組みせ、定着させる。
	思考・判断 ・表現	・問題の解決に向けて、既習事項を使って自分の考えをもつ児童がいる一方で、見通しをもてずに自分の考えをもてない児童がいる。	・ICT を活用して、考えたことを電子黒板に映したり、友達に説明させたりする。既習事項を確認する時間を取り、何が使えそうか見通しをもって問題に取り組みせるようにする。
社会	知識・技能	・提示した資料に書かれていることを読み取ることができないが、事実を元に理由を推測することが不十分である。	・複数の資料を比較したり、既習事項と照らし合わせたりすることを通して、共通点や相違点を見出し、自分の考えをノートにまとめさせる。
理科	思考・判断 ・表現	・生活経験や既習事項と結び付けて予想や考察を考えることに個人差がある。	・予想や考察を考えさせるときに、生活経験や既習事項と結び付けて考えるよう、視点を提示する。
	知識・技能	・科学的な用語や定義などを正しく理解することに、個人差がある。	・実験や観察など、具体的な体験を通して、自然の事物現象についての知識が理解できるようにする。また、関連する学習において、繰り返し活用させ、定着をはかる。
体育	思考・判断 ・表現	・自己の運動課題を見付け、その解決のための活動を工夫する児童が少ない。	・自己の運動課題を見つけられるように、ICT 機器を活用したり、友達同士で見合ったりする場面を作る。また、課題に応じて練習できるように場を工夫する。
図工	思考・判断 ・表現	・自分で表したいことを見付け、活動できる児童が多いが、題材によっては、発想が広がらない児童がいる。	・材料で試しながら表したいことを見付ける場を設定する。また、ICT を活用し、密集することを避けつつ鑑賞の時間を設けることで、児童が発想するきっかけをつくる。
	主体的に取り組む態度	・どの作品にも意欲的に取り組むことができている。一方で、自信がなく自分の考えを表現することを苦手とする児童がいる。	・作品鑑賞の際に互いの作品のいいところを見つけ合い発表する場を設定することで、自他を認め合える環境をつくる。
音楽	思考・判断・表現	・意欲的に取り組む児童が多いが、自分から意見を言える児童が限られている。	・各教材で、必ず各自が考える場をつくる。1人1人が考える(自力解決)→全体で考える、またはグループでの意見交換(試行錯誤・共有)というプロセスを通して、いろいろな感性や考えにふれ、説明するための語彙を増やす。
	主体的に取り組む態度	・歌唱、創作、グループでの活動など、とても意欲的に取り組む児童が多い。	・楽しい楽曲、美しい楽曲にたくさん出会わせたり、友達同士で学び合う場をつくり、刺激し合うことで、更に意欲を高めていく。

6 年生

教科	観点	・児童の実態や課題	・課題に対する具体的な方策
国語	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 相手に分かりやすく伝える工夫が苦手な児童が多い。 話し手の意図を捉えて質問することが苦手な児童が多い。 自分の考えを伝えることが苦手な児童も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 内容の構成について確認し、受け手に分かりやすい仕組みを身に付けさせる。また、受け手の理解や実感を助ける効果的な例を示す。 話題を捉える指導を行う。話題から逸れずに質問や感想を発信する体験を積み上げる。 自分の意見を伝えやすい形態の中で活動させ、自信を高めさせる。
	算数	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 問題文の意味を捉え、筋道を立てて考えることが苦手な児童が多い。
社会	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 歴史学習に意欲をもつ児童は多い。提示資料からまとめる力も付いてきているが、記述問題では、因果関係を適切に表現する力が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 「見方・考え方」の観点を明確にし、「変化した事象」「変化した結果」「因果関係」を意図した発問を行うことを通して、社会的事象が起こった原因を児童が考える場面を増やす。
	主体的に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 資料から読み取る力をもつ児童は多い。読み取った事実から「自分ならこう考える」と、自分の意見につなげて考える力はまた弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレットの活用を通して、友達の意見から自分なりの考えをもつように図っていく。自分の気づきを学習課題にして、探求する時間を設けていく。
理科	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 動物や植物の体のつくりとその働き、生物と環境との関わりについて、知識の整理や観察、実験結果の現象は理解できる。その一方で、それらの仕組みや働きや関わりについて文で表現する力が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 考察の場面では、時間を十分に確保する。そして、なぜそうなるのかを、教科書などの資料や実験結果を参考にしながら記述したり、説明したりする活動を増やしていく。 一つの実験方法だけではなく、多面的に調べる活動をしたり ICT の映像資料などを用いたりして、妥当な考えを導き出す。
	体育	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 自己の運動課題を見付け、その解決のための活動を工夫している児童が少ない。
図工	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 多様な発想をすることができる児童が多いが、表し方の構想を練ることが苦手である。 作品のよさや面白さを感じ取ることができるが、作者の意図や作品の特徴を深く探ることが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な表し方や自分の思いに合った表現方法を見付けるきっかけづくりを、ICT を活用して行う。 様々な作品に触れる場を設定し、一つ一つの作品についてじっくり考える活動を取り入れる。
	主体的に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> どの作品にも意欲的に取り組むことができている。一方で、自信がなく自分の考えを表現することを苦手とする児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 作品鑑賞の際に互いの作品のいいところを見つけ合い発表する場を設定することで、自他を認め合える環境をつくる。
音楽	知識・技能 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 曲想を感じ取って声量豊かに美しく歌うことができる児童がたくさんいる。しかし感じ取ったことやどのように演奏するかを自分の言葉で表現することが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> 今までに習った楽曲や全く違う感じの曲と対比させたり、楽譜に感じ取ったことや表現の工夫を書き込んだりして共有することで、言葉での表現の仕方を覚えていくようにする。
	主体的に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱、創作、グループでの活動など、とても意欲的に取り組む児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が興味をもてるような楽しい曲、美しい曲にたくさん出会わせたり、友達同士で学び合ったりすることで、更に意欲を高めていく。 今までの集大成として大規模合奏に取り組む。